

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Association between maternal fermented food consumption and infant sleep duration:The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中の母親の発酵食品摂取と乳幼児の睡眠時間との関連

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS ONE

年: 2019 月: 10 巻: 頁:

筆頭著者名: 杉森 成実

所属UC名: 富山UC

目的: 概日リズムは腸内細菌叢による影響を受け、また概日リズムは胎児の頃からスタートすることが知られている。しかしながら、母親の発酵食品摂取と乳幼児の睡眠時間との関連はまだ報告されていない。そこで本研究では、妊娠中の母親の発酵食品摂取とその後産まれた1才の乳幼児の睡眠時間との関連を調査した。

方法: 72,624名のデータを使って、妊娠中の母親の発酵食品摂取(味噌、納豆、ヨーグルト、チーズ)と乳幼児(1才)での睡眠不足(11時間未満)になる危険率との関連を、19の共変量で調整し多重ロジスティック回帰分析を行った。なお、米国National Sleep Foundationでは、1才児における1日の推奨睡眠時間を11~14時間としているため、本試験での睡眠不足を11時間未満とした。

結果: 多重ロジスティック回帰分析の結果、妊娠中の母親の味噌摂取は第2~4四分位で有意なオッズ比の低下がみられ、また傾向検定で有意な関連がみられた。

考察:(研究の限界を含める) 本試験では乳幼児の睡眠時間については、母親の記憶に頼っていることが研究の限界となっている。また、母親の発酵食品の摂取は社会経済的要因と関連していることから、健康意識を介して子供の睡眠時間に影響していた可能性はある。さらに、実際に腸内細菌叢を測定しているわけではないので、今後は介入研究等でこの関連を確認しなければならない。

結論: 乳幼児(1才)における子供の睡眠時間が11時間未満になる危険率の低下は、妊娠期母親の発酵食品の中でも特に味噌汁と関連があった。